

特集

第 75 回国立病院総合医学会を終えて

永野功

国立病院機構宮城病院院長

(2021 年 12 月 28 日受稿、2021 年 12 月 28 日受理、連絡先：永野功・〒 989-2202 宮城県亶理郡山元町高瀬字合戦原 100 国立病院機構宮城病院 院長)

令和 3 年度の国立病院総合医学会は、「社会の大転換期における国立医療（救う、支える、育む、拓く～連帯と挑戦～」をテーマに、2015 年の札幌に続き 6 年ぶりに北海道東北グループの担当で、仙台医療センターが会長、米沢病院と宮城病院が副会長として開催されました。今回は COVID-19 パンデミックの中で 2020 年に引き続き Web 開催となり、交流会等で他施設の方々と触れ合う機会もなく、はらこ飯など宮城県の秋の味覚を全国の皆さんに堪能していただくチャンスもなかったのですが、オンデマンド配信期間を長く取り、結果的に安全安心の総合医学会、じつくりと Web 視聴のできる学会になったと思います。私は、開会式初日に開催された特別講演 1「新型コロナウイルス感染症の最新知見」（押谷仁先生）と 2「東日本大震災の発生と今後の防災」（今村文彦先生）には非常な感銘を受け、その後オンデマンド配信が終了するまで数回視聴できたのは幸いでした。

振り返れば第 1 回実行委員会が 2020 年 12 月 22 日に開かれましたが、この時点では国際センターと東北大萩ホール、県医師会館を使って実参加で開催する方針でした。COVID-19 のパンデミックは広がっていたものの第 2 波が過ぎ 10 月ごろから感染者数が少なくなっていたので、開催日までには収束するのではという淡い期待があったのも事実です。しかし、その後は年明けから第 3 波が到来、3 月に新規患者が減少したのち 4 月から第 4 波が始まりました。これを受けて、機構本部と協議の結果、

2020 年に引き続いて完全 Web 開催に決定しました。今から思えばパンデミックが 1 年余で終わるわけではないのですが、楽観的観測は人間の性ですからわれわれもそうだったようです。その後は、東京オリンピックのあたりに第 5 波となり、感染者は連日増加を続け、ピークの 1 日 2 万人超の新規陽性者数を記録したのは記憶に新しいところです。この時点で、本学会を Web 開催方針としたわれわれの判断は誤ってなかったと胸をなでおろしました。

本番に向けて上之原大会長の主導のもと本学会の構成等を詰めていった経緯については他所で詳述されるでしょうから、ここでは手前味噌ながら本学会における宮城病院の活躍について触れたいと思います。宮城病院からは口演 7 題、ポスター 10 題、QC 活動 3 題を登録し、2 つのシンポジウムに参加しました。国立病院機構として宮城病院が初めて受託した山元町地域包括支援センターの活動を紹介する口演演題と、当院の 24 時間訪問看護ステーション「かけはし」が推進している看護連携についての口演演題はすぐれた内容で、他施設の方々にも参考にさせていただけたと思います。ポスターでは、やはり機構病院初で導入された MR ガイド下収束超音波治療（FUS）について、病棟と手術室との情報共有を進める手順導入とその効果を発表し高い評価を得ました。私は脳神経内科医として神経難病に携わってきた経緯を踏まえて、シンポジウム「神経難病の臨床倫理～ACP から death conference まで～」を企画しました。シンポジウムの要旨は以下のとお

りです。「慢性進行性で治癒を望めない神経難病を患う人々が、尊厳を維持して人生の最終段階を迎えるには、本人・家族・医療者が十分な話し合いを通して患者の意思をくみ取りその実現を目指すことが必要である。このシンポジウムでは、その手段としての ACP についての理解を深め、葛藤が生じたときの倫理的検討方法について紹介、さらに死後の振り返りカンファランスとしての death conference の意義について議論する。」このシンポジウムでは、元大阪地裁裁判官の中京大学教授稲葉一人先生に ACP について、山形県立保健医療大学看護学部の後藤順子先生には death conference についてお話いただきました。私は倫理コンサルテーションの目的と意義について臨床倫理学の立場から概説を行い、宮城病院社会事業専門職の板橋彩子さんには倫理的検討を実際にどう行うのかについて実例を交えて講演してもらいました。このような臨床倫理をテーマとしたシンポジウムは国立病院総合医学会で

はあまりなかったと思いますが、今後、臨床倫理について機構職員の関心が高まり、機構病院でも臨床倫理委員会の活動や倫理コンサルテーションが拡大していくことを期待しています。

さて、11 月 20 日にすべての Web 配信を終了し 12 月 16 日に最後の実行委員会で総括が行われました。参加者 5,353 人、演題数 1,712 題と堂々たる数字で、収支も少々の黒字でした。私の企画したシンポジウムも予想以上の視聴数を出し面目を施しました。今回の総合医学会は 12 年ぶりの仙台開催でしたが、Web 開催ながら充実した医学会になったと思います。大会長の上之原先生をはじめ仙台医療センターの皆様へ深謝申し上げます。さらに副会長とともに務めた盟友（迷友？）飛田先生と米沢病院の職員の皆様、そしてわが親愛なる宮城病院職員各位に心から感謝します。12 年後にはさらに素晴らしい総合医学会を東北の地で開催できることを願っております。